



名張にあった皇學館大学の学生のころ、「広報なばり」で取り上げられました。自然が多く人に優しい住みやすい名張が好きで、地域のイベントなどにも参加して、充実した学生生活を過ごしました。特に21世紀カウン

平成12年2月号 (No.520) 「人 イキいき」に登場 猿渡 真吾さん

卒業後、実家のある北九州に戻り福祉関係に就職。昨秋に、B・1グランプリが北九州で開催され、「名張牛汁」が出店すると聞いて、うれしくて会場へ行き名張の人とも再会。牛汁を3杯も食べましたよ。第二の故郷「名張」を忘れません。応援しています！

1,000号特別企画 ②

あの人は今…

1000号を迎えるまでに、広報紙にはたくさんの皆さんにご登場いただきました。そんな皆さんにお話を伺いながら、広報紙の歴史を振り返ります。

人 名張を盛り上げるイベントで、たくさんの人と出会いたい。 1月21日に行われた「ヤング・ブレイク」のイベントで、名張を盛り上げるイベントで、たくさんの人と出会いたい。...

●まちや人の「今」を伝える広報紙 1955 - 2013



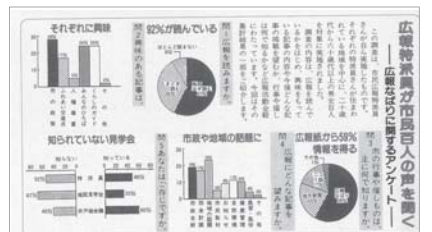
No. 1 昭和30年創刊

昭和30年1月1日、市制発足9ヵ月後に発行。B5判14ページの編集で、「市報なばり」の題字は初代市長を務めた故北田藤太郎氏の直筆によるものでした。



号外 伊勢湾台風から3日後

昭和34年9月26日、伊勢湾台風により、死者11名ほか未曾有の大被害を受けた名張市。その3日後の29日には、号外が発行され、当時の市長や市議会議長が、市民に被害の状況や復興への協力を呼びかけました。名張市の出来事にスポットを当てた広報紙は、その時々の様子や人々の思いを垣間見ることができる貴重な資料でもあります。



No. 444 市民参加の広報づくり

市民参加の広報紙づくりを目指し、平成4年度に「市民広報特派員制度」を創設。当時は10人に参加いただき、月に1度紙面評価をいただいたり、地域の話題などをリポートしていただいたりしていました。平成5年11月号では、「広報特派員が市民百人の声を聞く」という記事を掲載。紙面の中で特派員さんの1人は「市政に関心を持ち、自分自身がまちづくりを考えるようになった」と答えています。



平成15年12月号 (No.566) 表紙 「みんなで植えた梅の苗木」に登場 川西・梅が丘 地域づくり委員会の皆さん

みんなで植えた、梅の苗木 11月23日、朝白の長瀬川が荒れ、梅が丘(小学校区)地域合同植樹祭。約90人の住民が、朝白各町50の苗木を植えた。...

No. 571 ~ 月4回発行

平成16年5月から、月4回発行を実施。1面には、毎月さまざまな話題を掲載するようになりました。特に、秋には、地域の課題を掘り下げる特集を掲載。「食育」「園芸福祉」「介護予防」「地域の移動手段」「ごみ減量」「地域医療」「地域デビュー」「地震対策」「いじめ防止」など、その話題は多岐にわたります。いずれも、市民の皆さんとともに、課題解決への道を探る特集としています。

No. 468 空き缶拾う名犬



100行の記事よりも、1枚の写真のほうが多くを語る場合があります。物の大きさや、形、場所、季節、参加人数、イベント参加者の気持ち…。紙面で伝えたいことは何かを考えながらシャッターを切るように心がけています。平成7年10月号では、名張川で空き缶を拾う犬(チピロン)の写真が、全国広報コンクールで1席を獲得しました。



激写!

「広報なばり」を皆さんにお届けするまでに数多くの情熱を注ぎ込んでいます。

4つの情熱

情熱ポイント1 「企画」



市の広報担当による編集会議(月1回)で、どのような情報を知っていたか、また、どのような記事が皆さんに求められているのかを真剣に話し合います。

情熱ポイント2 「取材」

現場の声があると、説得力が違います。資料だけでは見えてこない現実を目の当たりにできます。だから、できる限り現場で取材します。臨場感あふれる写真にもこだわります。



情熱ポイント3 「編集」



限られた紙面で、皆さんの情報を、いかに分かりやすく伝えるかは、絶妙なテクニックが必要です。文章の書き方や紙面レイアウトなどには、日ごろの鍛錬が欠かせません。

情熱ポイント4 「校正」

記事作成⇒担当室による確認(校正)⇒広報担当全員で確認⇒担当室による再確認⇒広報担当全員による最終確認⇒市長決裁と何度も確認してから、印刷をします。



絵に親しんでおられる桐村さん親子(つじが丘南八番町)にお話を伺った。いつから絵に興味を持ち、ついに「なばり」の表紙に登場した。でも、そのころは小学生のとき、絵がコンテストに入賞し、海外で展示されたんです。

そのころがすくすく成長して心に残ったんです。今もそのときの気持ちを覚えています。絵に興味を持ちたいなと思います。でも、今はまだ絵が自分らしいものなのか探しているところです。そして納得いく作品も多く描けるようになったら、個展を開きたいですね。そういう意味では、市内で気軽に展示できるスペースがあればいいと思います。

桐村 正造さん 昭和20年生まれ

桐村 朋興さん 昭和46年生まれ

おやこーく

本格的にデザイン勉強をするようになりまして、1冊の目標は何ですか。正造さん、自分らしい作品を完成させたいと思います。でも、今はまだ絵が自分らしいものなのか探しているところです。そして納得いく作品も多く描けるようになったら、個展を開きたいですね。そういう意味では、市内で気軽に展示できるスペースがあればいいと思います。

桐村さん、わたしの作品をいろんな人に見てもらいたいですね。そして、自分の絵を通して、多くの人とのコミュニケーションができればと思います。無理をしなくても描くのは、気の向いたときに描いているような、そんな自然体で長く続けていきたいです。1冊の魅力は何ですか。正造さん、例えば、家に絵を飾っておけば、気分が「ホッ」とするものではないでしょうか。自分自身もそのような絵を描きたいなと思います。そのためにも、美術展を訪ね、人の作品を見るようにしています。

桐村さん、「百聞は一見に如かず」といいますが、言葉で伝えられないものが、一枚の絵で説明できることです。今は本の挿絵に興味があり、イラストも描いています。挿絵などは、まさに内容的確に表現しているものだと思います。イラストのコンテストにも応募しています。

平成7年12月号(No.470)「おやこーく」に登場 桐村 朋興さん



広報の担当者が自宅に来て、親子でインタビュー取材を受けたことを覚えてます。その時は、親子で絵やイラストを書くのが趣味だと話しましたが、その後、わたしはデザインの専門学校を卒業し、広告・デザインの会社に就職。そして今は、「広報なばり」の印刷や編集の一部に仕事としてかかわっています。普段仕事で気をつけているのは、メリハリや強弱をつけたデザインにすること。広告は、どれだけ人に見てもらえるかが勝負です。その点では、「広報なばり」の編集も同じだと思います。読みやすい毎週発行の広報が定着しているので、このスタイルを継続してほしいですね。



川西・梅が丘地域には成長した梅が咲き誇ります

10年前に、地域住民で多くの枝垂れ梅を植樹しました。その時の様子は「広報なばり」の表紙で大きく取り上げられました。しかし、その後、下草の草刈や枝の剪定など、梅の管理は難しく、成長できない木も多くなりました。「せっかくなので梅を何とかしよう」と再生に立ち上がったのは、川西・梅が丘

地域づくり委員会の中の環境衛生部会でした。本格的な梅の手入れを4年前から再開し、今では杉谷神社参道の歴史ある梅をはじめ、枝垂れ梅の花が地域のあちこちできれいに咲くようになりました。今年の3月には、「第一回梅まつり」を開催。今後も、梅をテーマにまちづくりを進めていく予定です。

No. 902 震災後に記事差し替え

平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、翌日には予定していた特集記事の差し替えを決定。1~2日で2ページの特集記事を仕上げ、3月27日発行の3-4号で市内の被害想定や家庭での地震対策、支援物資受け入れについてお伝えしました。

防災への関心が高まる中、その後も、23年度は7回にわたり地震に関わる特集記事を掲載。中でも23年10-3号は、総合的な防災特集という位置づけで、家庭・地域・行政の対策をまとめてご紹介。全国広報コンクール広報紙部門(市部)では、3席を受賞しました。



「広報なばり」品評会

1,000号特別企画 ③

広報紙づくりは、たくさんの皆さんにご協力いただいています。そんな皆さんをはじめ、新聞記者や高校生にお話を伺いながら、広報紙のあり方について考えます。



名張市政記者クラブ幹事
毎日新聞記者
矢澤 秀範さん

● 編集スタッフの熱意が伝わる

文字の大きさや紙面構成など読みやすさを追求し、とても工夫されていると思います。行政からのお知らせは、専門用語や難しい言葉が多いように思っていました。『広報なばり』は、市民の人や関係者がインタビュー形式で紙面にたくさん登場していますよね。話し言葉なので、とても分かりやすく感じます。また笑顔の写真が多いので、読手も明るくなれる気がします。編集スタッフの名張を良くしたい熱意が感じられます。

年に何回か子ども目線のページを作るとおもしろいと思います。また、市長への手紙や市政への意見など市民の声をもっと掲載するなどして、市民が市政に参加していることを知ってもらえるような伝え方をすれば、さらに身近な広報紙になるのではないのでしょうか。



平成24年度
市民広報特派員
井上 早織さん

● 親しみやすさ抜群！

以前住んでいた大阪の広報紙は、暮らしに必要な情報を得るため読んでいました。でも、名張に来て、『広報なばり』を見て感じたのは、市民を意識した心のこもった親しみやすい広報紙だということでした。単に必要な情報を得るためだけでなく、毎号楽しみに読んでいます。

昨年、市民広報特派員として応募して、広報紙づくりに参加し、スタッフの皆さんの心のこもった仕事ぶりを生で見ることができました。わたしは、「名張に惚れて移住しました」というテーマでレポートを書きましたが、『広報なばり』にも惚れたんです。

若い世代が興味がある話題も取り上げてほしいです。『広報なばり』や名張を応援するサポーター隊などの組織ができれば、多くの人が市政に参加できるのではないのでしょうか。



「広報なばり」の音訳をしている
ボランティア「こだま」のメンバー
神前 ひろ子さん

● 暮らしに欠かせない情報がある

9年前から目の不自由な人のための『声の広報なばり』を制作しています。ご希望の人がいる限り音訳を続けていきたいですね。毎週発行になり、暮らしに欠かせない情報がコンパクトにまとめられ、聞いている人も分かりやすくなったと思います。本の朗読とは違い、広報を声で伝えるという音訳では、感情を入れず、正しく分かりやすく話すことを心がけています。

例えば、グラフを表現するときも、「山型になって推移しています」などと、できるだけイメージできるように話します。複雑な表や図など説明にくいものをどう伝えるか、いつも工夫しています。

広報紙は、市民の一人ひとりにとって大切な情報源ですから、これからも正確で分かりやすい記事をお願いします。

■市の情報をできるだけ広報紙に掲載し、行政情報をひとまとめにして市民の皆さんに提供します。

■行政と市民の皆さん、事業者の皆さんなどが力を合わせてまちづくりに取り組む「新しい公」に注目しながら、総合計画で取り上げられている施策を取り上げます。

■月4回発行を生かして、情報を適切な時期に掲載します。



市のさまざまな課題を掘り下げる特集のほかにも、決算や予算などをお知らせする際に、市の財政状況もできる限り詳しくお伝えしています。

市政情報を市民の皆さんと共有化できる紙面づくり

「広報なばり」の編集にあたっては、今後、次の3つの基本方針に沿って、市民の皆さんに信頼され親しまれる広報紙づくりに努めていきます。

「広報なばり」編集方針

ご存知ですか? 「広報なばり」音訳・点訳サービス

音訳・点訳ボランティアの皆さんのご協力で、『広報なばり』の音訳CDと点字広報を作成しています。視覚障害がありご希望の人は、高齢・障害支援室(☎63-7591)へお問い合わせください。無料です。



名張点訳グループ「あかり」の皆さん

読者アンケートにご協力
ください!

広報なばりメールサポーター再募集

謝礼は、1000円分の図書カード
(アンケートに半数以上お答えいただいた場合)

登録者には、電子メールを活用し、「広報なばり」に関するアンケートを配信します。アンケートは、記事が分かりやすかったか、分かりにくかったかーなど簡単なものを中心で、発行号ごとのアンケートや意識調査など全50回程度。任期は平成26年3月末まで。

対象 市内在住で中学生以上の人
※ 市議会議員、市職員を除く

登録方法 注意事項を確認後、5月31日迄までに、市ホームページに記載の登録用メールアドレスに電子メールを送ってください。その後、登録用URLを記載した電子メールが自動返信されますので、必要事項を入力してください。
※ 定員100人。先着順

「広報なばり」の記事を
企画・取材編集してください※

市民広報特派員を再募集!

※全てを依頼するものではありません
対象 市内で市民公益活動を行っている団体、市内在住・在学・在勤の人
募集期間 4月30日迄まで
任期 委嘱の日～平成26年3月末
定員 2人(団体)程度
謝礼 10,000円
◎応募方法など詳しくは、市ホームページをご覧ください。

☎ 広報対話室 ☎ 63-7402

広報紙に
皆さんの
声を!!



広報なばりメールサポーター
の皆さんに聞きました

- ▼私は名張市に引越して6年経ちますが、まだ名張の事に詳しくありません。名張の土地や人の魅力をもっと知りたいです。
- ▼一方通行の記事ではなく、市民と市の考えをやり取りできる目交箱的なことも設けてはどうかと思います。
- ▼パソコンに精通していない人もたくさんいますので、「広報なばり」のような紙面での情報発信は貴重です。
- ▼特集記事をより掘り下げるため、3ページくらいのスペースを取って展開してほしいテーマもあります。
- ▼若い世代には興味をもてない内容が多かったと思います。たまに、面白いけど。
- ▼市民広報特派員も経験しましたので、記念すべき1,000号は、一段と感慨深いです。広報紙は市民の期待に応えられているのか、再考するよいきっかけです。

市HPで
もご意見
公開中

皆さんからの声は、
広報紙作成の原動力

● 広報なばりメールサポーター

<http://www.city.nabari.lg.jp/>

「今週号はよかった」という声もありますが、「工夫が足りない」という声もたくさんいただきます。こうした声は、編集の参考になり、また、もっと皆さんに読んでいただけるものを作ろうという原動力になります。

皆さんからご意見をいただきながら、広報紙を徐々にですが、よりよくしていきたいと考えています。



三ツ森 雄平さん(名張高校)
広報対話室で3日間、
職場体験をした高校生

● 山口螢選手の記事が印象深い

わたしが「広報なばり」を見て特にいいなと思った記事は、昨年8月に掲載された山口螢選手の五輪出場を紹介した記事です。地元出身のすごい人がいることを知り、写真も多く使われていましたので興味を沸きました。

文字ばかりの記事だと、何だか見にくくて読む気がなくなります。写真はもちろん、目を引く見出しがあったり、同じ世代の高校生や知っている人が出ていたりすると、もっと若い人にも読まれるんじゃないかな。コミュニティバスの時刻表もあれば便利ですね。

それに、わたしの周りでは、ツイッターをしている人がたくさんいます。そういった広報紙以外の媒体でも、積極的に情報発信して欲しいですね。

お届けします。
なばりの
「いいね!」

名張市公式
Facebook ページ

● 3月から本格運用中!

<http://facebook.com/city.nabari>

【アカウント名】名張市役所広報対話室

市では、フェイスブックページを活用し、催しや季節の話題、行政情報などを掲載しています。フェイスブックの利用者であれば、魅力的な情報に対して「いいね!」という意味表示をしたり、情報を広めたりできます。ぜひ一度、ご覧ください(市ホームページからも閲覧可。閲覧のみなら利用登録は不要です)。

編集後記

- 1,000号の節目に広報編集にかかわって、大変光栄です。広報編集では、締切に追われて、伝えることの難しさを日々痛感しています。明るい話題や名張のPRなどをお伝えし、市民の皆さんに愛される「広報なばり」をお届けできるよう頑張ります。取材などでお邪魔するときは、ご協力をお願いします。(中木屋)
- 「広報なばり」の編集にかかわり4年が経ちました。これまでインタビューなどにご協力いただきました皆さん本当にありがとうございました。これからも、先輩たちが築きあげたスタイルを継承しながら、市民の皆さんに読まれる広報紙づくりに励んでいきます。(宮本)
- 約10年間籍を置いた広報担当を3月末に卒業させていただきました。その間、かかわった広報紙は実に439号分に及びます。月4回発行への移行やメールサポーター制度の創設、広報コンクールへの出品、フェイスブックの活用など、皆様のご協力をいただきながら、右の編集方針を全うすべく取り組んできました。最後に1,000号の編集にかかわることができ、すごく感慨深いものがあります。これからも「広報なばり」は、皆様のご協力によって前進していけるものと確信しています。(高嶋)

■ 写真やイラスト、図表などを多用し、また、平易な文章表現により、分かりやすく、市民の皆さんに親しまれる広報紙を目指します。



親しまれる紙面づくり

■ 地域活動や市民公益活動などの実態や話題を掲載し、これらの活動を応援します。

■ 紙面を通じて市民の皆さんとの対話を図り、市民と行政の協働のまちづくりを進めます。

市民参加の紙面づくり

市民広報特派員が取材する記事を掲載。市民の視点を広報紙づくりに生かしていただいています。

